

■【トピックス】
第50号です！



東日本大震災から1か月以上経過しましたが、いまだ被害の全容すら分かっていません。

それもあって世間では自粛モードが続いていますが、このままでは日本経済全体がメルトダウンすることが懸念されます。

そんな中、このニュースレターも50号を数えることになりました。微力ではありますが、復興に向けた経済、特に中小企業にお役に立てるように、これからも務めていきたいと思えます。

■【ビジネス・アイ】
特命会計士！

- 社長 「新聞で見たんだけど、企業の不正を調査する特命会計士というのがいるんだね」
- 花野 「私も読みましたが、俗称ということで新聞記者がそう呼んでるみたいですね」
- 社長 「というと特命会計士という会計士はいないということ？」
- 花野 「そうですね。普通の公認会計士がたまたま監査法人の中で不正監査を専門に行う部門に配属されただけだと思いますよ」
- 社長 「それでも監査法人の中に不正監査を専門に行う会計士がいるんだね。でも、何で普通の監査じゃ不正を見つけれられないの？」
- 花野 「通常の法定監査の場合は、そもそも不正の発見を目的にしてないんですよ。全体としての財務諸表の適正性を見ているので(汗)」
- 社長 「そうなんだ！なんだか良く分からないね」
- 花野 「そうですね。普通の監査はサンプリングで調査をしているため、すべての取引を見ているわけではないんですよ」
- 社長 「そうだよね。上場会社の取引を全部見ることは言われてみれば不可能だよ」
- 花野 「そうなんです。だから不正が発見された場合には、特別にサンプリングではなく、対象の取引を精査するんですね」
- 社長 「徹底的に調べるんだね。そういうことなんだね」
- 花野 「そうなんです」

■【今月のキーワード】
不正監査

企業などの決算書である財務諸表の監査は、通常、試査といわれるサンプリングによって調査が行われます。

しかし、企業で不正事件などが起こるとその原因や責任追及のために調査が行われます。その際、監査の専門家である公認会計士にも調査の依頼があります。

外部の第3者ということで、その専門性と客観性が評価されてのことです。大手監査法人には専門の部署があるようです。

■【今月の1冊】

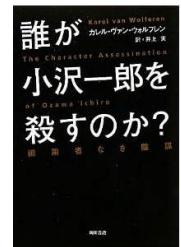
『誰が小沢一郎を殺すのか？』

カレル・ヴァン・ウォルフレン 著
角川書店 ￥1600

東日本大震災が発生した後、菅内閣の動きが思わしくないと感じている人も多いことでしょう。菅総理の性格も最近では問題視されています。

しかし、それだけでしょうか？
官僚に支配された日本というシステムが制度疲労を起こしているのかもしれない。

この本を読むと現状は、「政治の中心」が不在なため機能不全に陥っているように感じます。



■【編集後記】

ニュースレターを創刊してから4年あまり、この間にリーマン・ショックがあり、そこから日本経済が立ち直る前に、今度の震災です。ますます日本の経済状況が悪化していることが気になります。一刻も早い復活を願うばかりです。

『NEWS LETTER』vol. 50 (毎月1日発行)

●定価：2,400円/年 ●発行日：2011.5.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>